

上士幌町民の生涯学習活動を応援します！

生涯学習だより 下半期号 2024

3/25
発行

「多世代交流の仕掛け人」

■発行：生涯学習推進協議会会長 竹中 貢 ■編集：生涯学習情報委員会委員長 小嶋 則之 ■事務局：教育委員会内 ☎2-3024

生涯学習とは、私たちが生涯にわたり、学校や社会などのさまざまな場所で学び経験する全てのことを指しています。情報委員会では町民によるさまざまな活動やきっかけとなる事からを生涯学習だよりの中で取り上げていきます。本紙を通じて皆様の豊かな生活づくりの新たな気づきにつながれば幸いです。



「Life もりおか」森岡 庸子 さん

さまざまな年代の町民が利用するお店

「Life もりおか」

「Life もりおか」のはじまり

1992(平成4)年に帯広市から嫁いできた森岡庸子さん。義理のお父様とお母様が1930(昭和5)年に家具と建築の専門店として開業されたのがお店の始まりです。2001(平成13)年にお店をリニューアルオープンしたときに、森岡さんもお店に出て働くようになりました。

文房具を取り扱い始めたきっかけ

お店では家具だけでなく文房具なども取り扱っています。2018(平成30)年、60年という長い間町民に親しまれ続けた「こうけつ文具店」がお店を閉めることとなり、「町内に文房具を取り扱うお店がなくなると、町内の子どもたちや保護者も困ってしまう」という思いから、文房具を取り扱うようになったそうです。

最初は子どもたちが学校で使うノートなどを扱っていましたが、お客様のニーズに応じて文房具を段々と増やし、店頭の商品がない場合は「取り寄せもできますよ」とお客様へ声掛けもされています。

お客様の年齢層

「お客様の年齢層は？」という質問に、「全世代です」と笑顔で答える森岡さん。高齢者の方がおしゃべりをして来店したり、移住されてきた男性のお客様が、お店の窓際に並んで

いるマグカップを見てふらっと立ち寄ってくださったりと、さまざまなお客様が日々来店されています。元々家具だけを取り扱っていたときには来るのがなかった小学生が、友だち同士で来店することもあり、文房具や雑貨を取り扱うようになってから、さまざまな世代のお客様が来店してくださるようになったそうです。

やりがいを感じる瞬間

元々、文房具や雑貨が好きだとお話しする森岡さん。昭和を感じるレトロな文房具が好きで、それを子どもたちが購入してくれると、とても嬉しい気持ちになるそうです。



懐かしさを感じる、レトロな文房具

「まさか自分がお店に立ち、商品を仕入れる側になるなんて思っていませんでした。元々文房具や雑貨が好きなので、カラフルな商品を見ると

たまらなく楽しい気持ちになりま
す」と笑顔で商品の魅力を語って
くれました。

お客様のニーズに応えたい

「Life もりおか」では、家具や
インテリアも豊富に取り扱っており、
町内の高齢者のお客様が絨毯を購
入された際、お客様のご希望で
お家までお邪魔し、家具などを
動かして絨毯を敷いてあげたこ
ともあったそうです。

「そのとき、お客様が大変喜ば
れて、その喜ぶ姿を見る瞬間が
一番嬉しいです。この上土幌
町で、個人でやっている会社だ
からこそ、できるだけお客様
のご要望に応えたいと思っ
ています」と、お客様との交
流やつながりを大切にされ
ている森岡さん。

森岡さんのお話を聞いていると、
仕事へのやりがいや楽しさが
たくさん伝わってきます。そ
んな森岡さんに「仕事の中
で、どんなときに大変さを感じ
ますか？」と質問しました。
「家具のサイズなどは覚える
のに苦労しました。カーテン
や窓に取り付けるロールスク
リーン、カーペット、ラグな
ど、幅が1センチ違うだけで
印象が変わります。最近、や
っと自分も覚えてきたなと思
うんです」

と、働き始めた当時のことを
振り返ります。

また、お客様のご自宅へ伺
い、その部屋に応じた家具を
提案されることもあるそう
です。

「お客様のお部屋を見て、
その部屋に合ったサイズの
家具を提案させていただく
のも大事な仕事の一つです。
お部屋のサイズに適切な
家具を提案して、気持ち
よく使ってほしいなと思
うんです」

お客様が必要とする商品
を店頭に見ただけでなく、
森岡さん自身が見ている
ように商品を見て楽しく
なるような商品を選び
たり、季節ごとに商品
を変えたりと、お店の
レイアウトを変えたり
して、お客様がいつ来
ても楽しいと感じてもら
えるような工夫もされ
ています。



黄色い商品を集めた「黄色コーナー」

お客様の「可愛い!」「また
来たい」という言葉が、森岡
さん自身

エネルギーになってい
るとお話ししてくれ
ました。

今は、春から夏に向
けて、新しいコーナー
のレイアウトを考え
中だそうです。

人と人のつながりを大切に

「物流が便利にな
ったこんな時代だ
からこそ、町の
商店は必要だと
感じます。買
い物ついでに
世間話をし
たり、人と
人のつなが
りのある大
きな場所
です」と話
す森岡さん。

森岡さん自身も、近
隣の商店へお邪魔
し、一緒にお茶を
飲んだりお話し
を楽しんだり
と、忙しい合
間にもほっと
息つく時間
があるそう
です。「お
店の人にと
つてもお客
様にとつ
ても、お互
いに必要
な場所だ
と思います」

また、営業時間
外であっても、
お客様からご
連絡があった
場合、急遽
お店を開け
ることもある
そうです。「
こういうこ
とができる
のも上土幌
町ならでは
という森岡
さんの言葉
から、地元
に根差した
商店の良
さを改めて
感じました」

お客様への心遣い

取材の最後に、
店内の奥にあ
るトイレを見
せていただき
ました。

植物のモチーフで
きれいに装飾さ
れ、見ている
だけで楽しく
なる場所とな
っていました。

「ぜひトイレ
だけでも利用
していただ
きたい」と、
お客様への
思いや
りをここ
でも感じ
ることが
できま
した。



お店の奥には、こんなに素敵なトイレが

行くたびに
ワクワクする
ようなお
店づくり
と、人と
人のつな
がりをお
客様に
大切にする
森岡さん
の思いが
形となっ
た「Life
もりおか」
。多世代
に愛され
る上土幌
町にはな
くはない
お店の一
つです。

《Life もりおか》

上土幌東3線237番地
TEL: 01564-2-2079
営業時間: 9:00 ~ 18:00
定休日: 日曜日
※ 祝日も営業しています

遊びから学ぶ

「かみしほろミニ四駆クラブ」

ミニ四駆で

子どもたちの居場所づくり

2017(平成29)年から上士幌自動車工業株式会社に働き始めた田辺晃騎さん。子どもの頃、ミニ四駆が流行り始め、その面白さに魅了されたといいます。大人になった今もミニ四駆好きは変わらず、より速くなるよう改造を繰り返し、仲間と一緒に自分たちのミニ四駆を走らせていたそうです。

そんなとき、「本来ミニ四駆は子どものためのオモチャ。今の子どもたちにもミニ四駆を楽しんでほしい」と考え始めます。どうすれば子どもたちがミニ四駆を楽しめる場を提供できるか、時には、活動場所の管理や運営方法など学ぶため、他市町村の活動を見学に行くこともあったと話します。

さまざまな課題がありました。周りの人たちと試行錯誤を繰り返し、2019(令和元)年に「かみしほろミニ四駆クラブ」を発足しました。



かみしほろミニ四駆クラブ
部長 田辺 晃騎 さん

まずはやってみよう。

町内にミニ四駆コースを常設し、子どもたちが自分のマシン走らせることができるようになり、小学生や中学生が年齢関係なく、ミニ四駆を通して交流する場ができました。

田辺さんのミニ四駆の速さを見て、「どうやってたらそんなに速くなるの?」と子どもたちが質問してきます。そんなとき田辺さんは「自分で考えて、やってみようと思うことをやってみよう」と答えるといいます。

「大人が全部教えてあげるのではなく、子どもたち自身が考えて、失敗を経験することが大事なプロセスだと思います。失敗を繰り返しながら成功例を増やす。そして、また失敗する。それはミニ四駆も、人生も同じなんじゃないかなと思うんです」
大人が全部教えてあげるのではなく、子どもたち同士で試行錯誤し、一緒にミニ四駆を走らせること、それが本来の多世代交流なのではとお話してくれました。



ミニ四駆を走らせて盛り上がる子どもたち

ミニ四駆の魅力とは

子どもの頃からミニ四駆が好きだったと話す田辺さん。ミニ四駆を始めたばかりの頃、自分なりに改造してどんどん速くなっていくことがとても嬉しく、それがハマったきつ

かけだったそうです。そんな田辺さんに「田辺さんが考えるミニ四駆の魅力はなんですか?」と伺いました。「ミニ四駆は自分の試行錯誤した結果が、目の前ですぐわかります。そのわかりやすさが大きな魅力の一つです。自分の考えを形にしやすく、自分の予想がうまくハマるときもあれば、予想外な結果になるときもある。勝負になれば、目の前にいる対戦相手に負けることも勝つこともある。そこには、オンラインのゲームでは味わえない感覚があるんです」
速さを求めモーターを変えたら速くはなったが、そのままコースアウト。自分の想いに対して、結果が残酷なときもあり「もう引退する!」と思うときもありますと、笑いながら話します。

「Life もりおか」との交流

前半で紹介した「Life もりおか」とも関わりのある「かみしほろミニ四駆クラブ」。

ミニ四駆クラブを始めるにあたり、田辺さんは森岡さんに、「お店にミ



小さな部品を使ってマシンを改造中

二四駆の部品を置いてもらえないか」とお願いしました。その田辺さんの願いを快諾してくださった森岡さんのお店には、ミニ四駆の部品が今も並んでいます。

「ミニ四駆にハマると、すぐにでもここを改造したい！という気持ちになります。でも、上土幌町内には、ミニ四駆の部品を取り扱っているお店はありませんでした。そこで、家具や文房具などさまざまな商品を取り扱っている森岡さんへお願いすると、すぐに子どもたちがミニ四駆の部品を手に入れることができる環境が実現したんです」

町内のお店とつながり、自分たち

の活動を応援していただくことで、子どもたちだけでなく大人同士の交流も生まれたそうです。

新たに活動を始める人や、その活動に協力し、応援して下さる方々も増えました。そのおかげで、上土幌町に新たな子どもたちの居場所や多世代交流の場が生まれたことを、取材を通して知ることができました。

子どもたちを見て思うこと

「かみしほろミニ四駆クラブ」に来る子どもたちの様子を見て、どう感じているか田辺さんに伺いました。

「ただただ幸せです。子どもたちの笑顔は最高だと感じています。ミニ四駆は真剣勝負なので、時には子どもたち同士がケンカするときもありますが、子どもたち同士で折り合いをつけている姿を見れることも嬉しいと思っています。

そういう場面を見たときに、子どもたちは気持ちの落としどころを、こういった場で学んでいるんだと実感します。こういう経験をこれからもしてほしいと本当に思います」

そんな子どもたちの楽しむ姿、成長している姿を見ながら、子どもたちへ伝えたいこともお話ししてくださいました。

「失敗することが恐いと思っっている子がたくさんいると思います。そんな子どもたちにこそ、ミニ四駆を通して失敗を経験してほしい。自分の思い通りにならないことがたくさんあります。それを乗り越えて、自分で考える力、果敢に挑む力を養ってほしい。失敗したままにしておくことが失敗であり、その失敗から何を学ぶのが大事だと思います」

ミニ四駆を通して多世代が交流できる場をつくる田辺さん。今後「かみしほろミニ四駆クラブ」が、さまざまな世代の子どもたちが集まることができる、大切な居場所であってほしいと思います。

かみしほろミニ四駆クラブ Instagram

詳しい「かみしほろミニ四駆クラブ」の活動情報は、下記二次元バーコードよりご覧ください。



令和5年度生涯学習情報委員です



後列左から小嶋委員長、瀬野委員、佐々木委員
前列左から松田委員、小川副委員長、菅原委員

今年度より、生涯学習だよりが町のホームページでも閲覧することができます。町ホームページ内、生涯学習課ページからご覧いただくか、下記二次元バーコードをスマホやタブレットで読み取りご覧ください。



9月25日に発行しました生涯学習だより・上半期号において、掲載内容に誤りがございました。謹んでお詫び申し上げますとともに、下記のとおり訂正させていただきます。

- ◆ 訂正箇所 1 ページ下段(年表内)
- (誤) 1997(平成9)年
上土幌町が約30か所のアーチ橋を買い取る
- (正) 1998(平成10)年
上土幌町は線路跡地の一部を買い取り、主なアーチ橋等を譲り受けた